

安全運転

ほっと NEWS

2015年10月号

今月のクイズ

2013年の二輪車市場動向調査の結果によると、スポーツタイプのオンロード(公道で走る)バイクを購入した人のうち、排気量が401cc以上の大型のオンロードバイクが占める割合は41%でした。では、大型のオンロードバイクを購入した人のうち、40~50歳代の年齢層が占める割合を、次の中から選んでください。

① 25% ② 45% ③ 65%

(答えは裏面)



TOKIO MARINE
NICHIDO

再び、バイクに乗り始める前に…

深緑から紅葉にかわり、バイクを走らせるには心地よい季節になりました。

警察庁によると、バイク事故による死者数は年々減少傾向にあり、2014年は10年前に比べて約35%減りました。ところが、40~50歳代の死者数は10年前に比べて約2倍に増えています。その要因として、生活に余裕が出てきて、再びバイクに乗り始める「リターンライダー」が増えてきたことも背景にあるようです。

今月は、再びバイクに乗り始める前に、心得ておきたいポイントを確認しましょう。



あなたもバイクも「あの頃」とは違う



2014年中に東京都内で起きた全バイク事故4,639件のうち、40~50歳代の事故が占める割合は約38%ですが、全バイクライダーの死亡事故(44件)になると、40~50歳代が占める割合は約48%に増加します。死亡事故の原因をみると、カーブを曲がりきれずに壁に衝突または転倒するなどの「単独事故」や、前の車に追突したり、あるいは転倒して後ろから追突されたりする「追突事故」の割合が高くなっています(図1)。

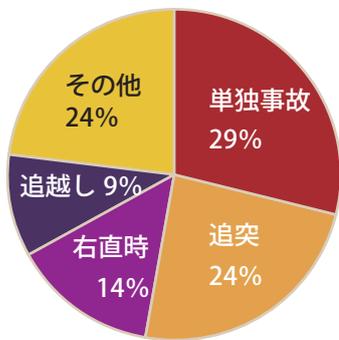


図1：40~50歳代ライダーのバイク死亡事故原因の割合(東京都/2014年中)

(出典：警視庁データより弊社作成)

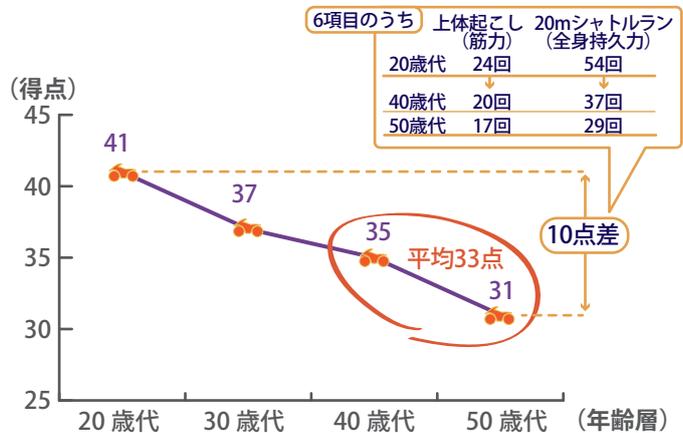


図2：新体力テスト(6項目合計)の年齢層別平均得点

(出典：文部科学省 平成25年度「体力・運動能力調査結果の概要」より弊社作成)

警視庁交通総務課によると、「リターンライダー」は若い頃に比べ体力が低下していて、バイクをうまくコントロールできないケースが多く、注意力も低下しているため危険への対処も遅れがちであると指摘されています。

文部科学省の世論調査によると、自分の体力について「自信がある」と答えた20歳代は約68%、40~50歳代は約63%と、若い世代と意識はそれほど変わりません。しかし、筋力や持久力、敏捷性など、体力や運動能力を測る調査結果では、20歳代の平均得点は41点なのに対し、40~50歳代の平均得点は33点と8ポイントも下がり、意識とは裏腹に体力が低下していることがわかります(図2)。

また、特に最近ではバイクの性能が良くなり乗りやすくなった反面、「リターンライダー」の操作感覚と今のバイクの性能にズレがあるため、事故につながりやすくなっています。

「リターンライダー」自身もバイクも「あの頃」とは違います。自身の体力や注意力が低下していることを自覚し、今のバイクの操作に慣れることに十分に時間をかけましょう。



再びバイクに乗る前に心得ておきたいポイント



再びバイクに乗り、快適で安全な走行を楽しむために、事前に心得ておきたいポイントを確認しましょう。

❶ 体力づくりから始めましょう

バイクは膝で挟み込み下半身で支えて走行するので、足腰を鍛える必要があります。さらに、同じ運転姿勢を維持するためには、持久力が必要になります。ウォーキングしたり、駅のエスカレーターを使わずに階段を上ったりする等、軽い運動から無理なく体力づくりを始めましょう。スポーツジム等に通って筋力や持久力をつけるのもよいでしょう。



持久力をつける

足腰を鍛える

❷ 自分の身体に合ったバイクを選びましょう

レンタルショップで借りたり、販売店で試乗等をして、自分の身体に合ったバイクを選びましょう。無理なくバイクを取り回す（押して歩く）ことができ、ふらつきなく乗りこなせることがポイントになります。

① エンジンをつける前に、次のことをチェックしましょう

- バイクを支えることができますか
- スタンドを外したり、立てたりすることができますか
- バイクを押して、8の字取り回しができますか
- バイクをまたいだときに、片足が地面につきますか
- 正しい姿勢がとれていますか



② 次の運転が、ふらつきなく行えるかチェックしましょう

- エンジンをかけ、徐行でまっすぐ「走る」ことができますか
- 徐行のままで、右や左に「曲がる」ことができますか
- 停止位置に「止まる」ことができますか



❸ ヘルメットとプロテクターで身体を守りましょう

警視庁によると、2010～2014年の5年間にバイク事故により死亡したライダーの損傷部位は、頭部が約5割で、胸・腹部が約4割を占めています。通勤時や買い物時の事故が多いことから、通い慣れた道を、ヘルメットのおご紐を締めないまま、手軽な服装で運転して事故に遭っているようです。



おご紐を締めよう

プロテクターを着用しよう

❶ ヘルメットのおご紐はしっかりと締めましょう

❷ 胸・腹部のプロテクターを着用しましょう

❹ バイクの安全運転講習に参加してみましょう

警察やメーカーが開催しているバイクの安全運転講習に参加してみましょう。乗車姿勢や身体の傾け方といったの基本技能を、もう一度学習しましょう。

再びバイクに乗り始める前に、十分に体力をつけましょう。無理なくバイクを取り回すことができ、ふらつきなく乗りこなせるバイクを選びましょう。

今月のクイズの答え

③65%（一般社団法人 日本自動車工業会 2013年度「二輪車市場動向調査報告書」より）

ご用命・ご相談は…

株式会社 アサヒ ファシリティズ 東京都江東区南砂2丁目5番14号

北海道 011-231-3332 大阪 06-6201-8663

東北 022-211-1631 広島 082-222-7500

東京 03-5683-1184 九州 092-441-3768

名古屋 052-231-8824



東京海上日動火災保険株式会社

企業営業開発部

〒100-8050 東京都千代田区丸の内 1-2-1

TEL 03-5288-6589 FAX 03-5288-6590

URL <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

担当営業課